

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝高。財源＝低。●社会教育課、中央公民館、福祉事務所

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
5-2	青少年の健全育成	未成年者	青少年が健全に育成され、豊かな社会を築く一員になっている。	成果	将来の自分の目標を明確に持っている新成人の割合(%)	42.0	53.4	37.4	33.5	44.2	44.0	30.1	▲	40.7	▲	横ばい	将来の自分の目標をはっきり決めている人の割合は40.7%、だいたい決めている人まで含めると77.4%となっており、昨年(30.1%、72%)と比較すると上昇しているが、目標値には届いていない。	自分の目標を明確に持つには、自己決定ができるような判断力を身につけることが重要となる。そのため多くの子どもが育成活動・体験活動ができるように各事業の推進、関係機関との連携を深めていく。
				成果	青少年の補導者数(人)	829	976	1149	1179	862	1145	843	▲	797	▲	順調	補導者数は、前年度の843人から46人減少し797人となり目標値に達したが、補導者数の増減は様々な要因があると考えられるため、単年度の結果で達成とは判断できない。	青少年補導員等各種団体や筑後警察署等とより一層の連携を進める。青少年育成指導員会での筑後船小屋花火大会や水田天満宮千灯明祭等の街頭指導を行う。
				成果	青少年の刑法犯数(人)	74	44	69	69	82	71	70	▲	42	▲	順調	刑法犯数は、前年度の70人から28人減少し42人となり目標値に達したが、刑法犯数の増減は様々な要因があると考えられるため、単年度の結果で達成とは判断できない。	各小学校や地域での「あいさつ運動」を継続していく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	家庭や地域の教育力の向上による生活基本習慣の習得	乳幼児、小学生	青少年が生活の基本習慣を身につけ、健全な社会人に成長する。	成果	地域の子どもたちが基本的な生活習慣を身につけていると思う市民の割合(%)	44.3	49.0	44.9	52.1	52.9	54.6	58.8	▲	59.5	▲	順調	基本的な生活習慣を身につけていると思う市民の割合は、アンケートの結果59.5%で、順調に年々高くなり概ね目標値に近づいている。あいさつ運動などの取り組みの成果ともいえるが、一方で「いいえ」と答えた方の理由では半数近くの方が「あいさつができていない」と答えている。地域別で見ると、古島、二川、下妻、古川校区の順に高く、筑後北、松原校区が低くなっている。	小中学校で毎月実施している、あいさつ運動を継続して行うとともに、各校区での「安全安心の見守り隊」によるあいさつ運動の推進を図っていく。子ども会や家庭教育学級など親に対する研修の中で子どもにとって基本的な生活習慣を身につけさせることの大切さを訴えていく。
				成果	地域の子どもや学校教育支援、育成活動にかかわっている市民の割合(%)	16.1	20.6	19.3	20.6	20.6	18.7	22.4	▲	23.7	▲	順調	活動にかかわっている市民の割合は、アンケートの結果23.7%で、順調に高くなり概ね目標値に近づいている。かかわりの高い活動は、交通安全活動、子ども会活動、学校活動への協力、PTA活動の順になっており、地域における青少年健全育成活動への取り組みが高くなっている。地域別にみると、子ども会活動・学校活動への協力が高いのは古川・水洗校区、PTA活動が高いのは松原・水洗校区、交通安全活動が高いのは二	子ども会連絡協議会において、各地区の子ども会の情報交換を高めることで、各地区の子ども会にさらに活発に活動してもらおう。学校授業やPTA活動にもゲストティーチャー(人材バンク登録者)の活用を促す。また、地域での交通安全活動(登下校の見守り)をさらに推進していく。
02	子どもの居場所づくりや体験活動の推進	行政、青少年団体	子どもたちの居場所づくりや体験活動を推進することで、多くの子どもたちが参加交流し、自立性が養われている。	代替	青少年育成活動・体験活動の延べ参加者数(人)	9773	9259	7801	7561	6344	5792	5443	10,000	6537	8000	横ばい	24年度の参加者数が前年度より増加した大きな要因は、隔年で実施しているジュニア美術展への参加者850人である。エンジョイ広場事業が、23年度の4校区から5校区に増え、利用者数も2,162人から2,768人に増加した。また、通学合宿、青少年友愛事業、子ども会連絡協議会事業、社会教育課や中央公民館が主催する文化・スポーツなどの講座も順調に参加者を得ている。	地域が主体の青少年健全育成事業であるエンジョイ広場の実施校区の拡大を目指す。青少年友愛事業や子ども会連絡協議会の各種事業について、青少年や保護者が主体となって企画・運営できる体制づくりを進める。
				代替	青少年育成活動の事業数(件)	18	16	16	15	16	18	18	18	20	19	20	順調	23年度の18事業から24年度は19事業に増加しているが、増加した事業は隔年に開催しているジュニア美術展である。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
03	青少年犯罪の抑制	青少年	関係機関や地域との連携を強めることで、青少年が犯罪被害にあったり罪を犯したりしないようになる。	成果	青少年の補導者数(人)	829	976	1149	1179	862	1145	843	800	797	↓	順調	補導者数は、前年度の843人から46人減少し797人となり目標数に達したが、補導者数の増減は様々な要因があると考えられるため、単年度の結果で達成とは判断できない。	青少年補導員等各種団体の活動を活発化させるとともに、筑後警察署を含め一層の連携を進める。 青少年育成指導員会での筑後船小屋花火大会や水田天満宮千灯明祭等の街頭指導を継続する。 「あいさつ運動」を継続していく。
				成果	青少年の刑法犯数(人)	74	44	69	69	82	71	70	60	42	↓	順調	刑法犯数は、前年度の70人から28人減少し42人となり目標数に達したが、刑法犯数の増減は様々な要因があると考えられるため、単年度の結果で達成とは判断できない。	